



年 組 名前

道新でワークシート

やまから 日誌

息苦しい日々

一時期に比べてマスクも消毒液も入手しやすくなってきた。ネット通販での価格も下がりがつつある。そんな中、私は「洗えるマスク」を常用している。布製や水着素材など多彩な物が出回り、色や柄もさまざま。少し前まで白や青の目の細かい使い捨てマスク生活は息苦しかったが、今は日替わりでちよっとした遊び心を楽しんでいる。

洗えるマスクは、フィルターの併用で花粉などは防げるが、ウイルス防御はできない。それは医療用以外の使い捨てマスクも同じことだ。ただ、鼻やのどの粘膜を乾燥させない意味で効果はあると思っている。

マチを歩いていると、使い捨てマスクの使い方を間違えている人が多いのが気になる。上部ワイヤを曲げずに着けて鼻の脇がガラ空き、ひだを開かず横がスカスカ、口だけ覆って鼻を覆わずー。これじゃマスクしないのと同じだ。自粛警察の人々なら「けしからん！」と激昂するのだろうか。

怒るのは筋違いだが、マスクが無意味に使い捨てられるのも、もったいない。どうにかならないものか。息苦しい話だ。

(米林千晴)

2020年5月30日(土) 朝刊 地方版(函館・渡島・桧山) 14ページ

①このコラムを書いた米林さんが、使い捨てマスクではなく「洗えるマスク」を常用しているわけとして適切と思われるものを、次の中から選びましょう。

- ア 価格が安く、入手しやすいから
- イ 色や柄もさまざまで、楽しめるから
- ウ 使い捨てマスク同様、ウイルスを防ぐことができるから
- エ 鼻やのどの粘膜を乾燥させない意味で効果があると思っているから
- オ 使い捨てマスクの使い方を間違えている人が多いから

②米林さんは、「息苦しい日々」というタイトルをつけました。どんな息苦しさを感じたのでしょうか。考えられることを2つ以上書いてみましょう。

・
・
・